

ナゴヤをつなげる 30 人 第 2 期 Day6 レポート ～いよいよ報告会。7つの名古屋の未来をつくるプロジェクトが誕生～

2021 年 1 月 27 日、名古屋市スポーツ市民局地域振興課主催の「ナゴヤをつなげる 30 人」第 2 期の Day6 が開催されました。

企業、NPO、大学、行政など、多様なセクターから集った有志が、ナゴヤをより良くするための協働のアイデアを出し合い、まちの人たちを巻き込む対話を起こしながら、その実現の道を模索していくこのプログラム。7つのチームがそれぞれの課題意識のもと、プロジェクトの構想を進めています。

Day6 は、第 2 期を締め括る報告会。半年間の対話から考え出されたプロジェクトを発表する場です。緊急事態宣言が発出されていたこともあり、オンラインでの開催に。メンバーの職場の上司や同僚の方々、Day4 のオープンセッションに参加してくださった人、名古屋市の職員など、100 名以上が見守るなか、7つのチームがそれぞれの想いとプランを伝えます。発表に対しては、中部電力株式会社の浦野隆好さん、名古屋市立大学教授の鶴飼宏成さん、名古屋市副市長の伊東恵美子、3 名のゲストからコメントをいただきました。発表の様子、ゲストの方々からのコメントなどをレポートします。

地域コミュニティ×スポーツ 戦国ナゴっちゃ！で天下泰平

我がチームの**目指すところ**！

戦国ナゴっちゃ！で天下泰平

- ①地域コミュニティの希薄化による**孤立**が
- ②孤立死等の様々な問題の温床となっているという**課題認識**のもと
- ③**スポーツの力**に着目しつつ
- ④誰でも気軽に参加できる**名古屋オリジナルのゆる～いスポーツ**を開発・普及させることで
- ⑤地域コミュニティの**希薄化に歯止め**をかけ
- ⑥もって**孤立にまつわる問題の解消**を目指していきます！



社会的な孤立、引きこもりなどの問題もある一方で、「もっとつながりたい」と考える人も多い今の世の中。地域コミュニティのつながりの希薄化に対して、誰でも参加できるスポー

ツで歯止めをかけたい。そんな思いから、名古屋らしい子どもからお年寄りまで参加できるスポーツの開発を目指してきました。

そんな地域コミュニティ×スポーツチームから提案されたのが「戦国ナゴっちゃ」という新競技。高齢者も楽しめるポッチャをベースに、武将のまち名古屋らしい要素が盛り込まれています。ルールには名古屋弁も盛り込んでいくようです。今後、競技を実践しながら、ルールを固めて広めていきます。課題を抱える団体との連携、モデル地域の設定、審判の養成、つなげる 30 人の他チームとの協力。一つひとつ今後のステップも示されました。戦国ナゴっちゃで世界へ羽ばたく。新しい競技がこれから形になっていきます。

6 ゆるスポ「戦国ナゴっちゃ！」の概要

【ストーリー】

時は戦国。あまたの戦国武将たちが、天下を巡って戦いに明け暮れていた。2つの軍勢が対峙し、最後の戦いに挑んでいた。

8人の武将が、城を取り巻いて睨み合っている。
両手に固く握りしめたその手には、2本のペットボトルが・・・

のろしの合図とともに決戦の火ぶたが切られる！
両軍が入り乱れ、ギミックの発動、謀反、敵ながらあっぱれ！・・・
目まぐるしい攻防のその果てに・・・

DWARI THREE HEROES



<ゲストの主なコメント>

浦野さん オリジナルのスポーツをつくるというとてもクリエイティビティの高いテーマだと思います。コロナ禍で全世代なかなか運動できない中で、社員の健康を気遣う企業との連携もできるのでは。

伊東副市長 つなげる 30 人の実施の根底には、地域コミュニティの課題があります。メンバーそれぞれが強みを生かしながら発表をしてもらえたと感じました。本市としてもプロジェクトを応援したい。巻き込み力を発揮してもらえたら。

つなげるパブリカ 100万人がつながるイベントを目指して

The slide features a green and white design. The title is in green. Below it, text describes the goal of a 2026 event. The text is as follows:

私たちの目指している未来

人類がコロナを克服し、アジア競技大会が名古屋で開催される2026年
「リアル」と「オンライン」を組み合わせ、老若男女**100万人**
を集めるイベント『つなげるパブリカ』の開催を目指します

The slide includes six small images: a collage of people, a traditional Japanese building, a stadium, a large sphere, a group of people in red, and a video call grid. To the right of the slide is a video inset showing a man in a suit speaking.

オンラインツールの普及が進むなか、ツールが使いこなせずに他者とつながれない人もいます。そんな人たちをサポートしながら、誰もがつながれる社会をつくる。ひとつのゴールとして 2026 年にリアルとオンラインで 100 万人がつながるイベントを開催しようと考えているつなげるパブリカチーム。

報告会では、Day5 以降にメンバーが実施した、オンラインツールの勉強会への参加、81 歳でプログラミングに挑戦しアプリを開発した若宮正子さんとの対談についてのお話も。今後、ファーストステップとして、小規模なイベントからどんどん企画し、オンラインツールを普及していく。YouTube チャンネルも開設。3 年後には、コンセプトに共感してくれた人たちが自発的にイベントを開けるようになる。そして、2026 年に企業の協賛も受けながら 100 万人のイベントを実施する。このビジョンのもと、各メンバーの所属組織の関わり方も示されました。5 年後に向けて、どんなイベントができてくるのか楽しみです。

事業の進め方

フェーズ1 (至今)
高齢者にオンラインツールを普及し、小さなイベントから開催していくフェーズ

① 高齢者向けのオンラインツールマニュアル・動画の作成
② 高齢者向けのオンラインイベントの開催（高齢者サロンなど）
③ ナゴヤ30の他チームでのオンラインイベント開催のサポート

フェーズ2 (~3年)
「つなげるパブリカ」の顔印のもと各イベントが自走していくフェーズ

① 単独でイベント主催者になることのできる協力者を増やす
② 「つなげるパブリカ」をブランディングして各イベントをタグ付け

フェーズ3 (2026年)
大規模イベントを開催するフェーズ

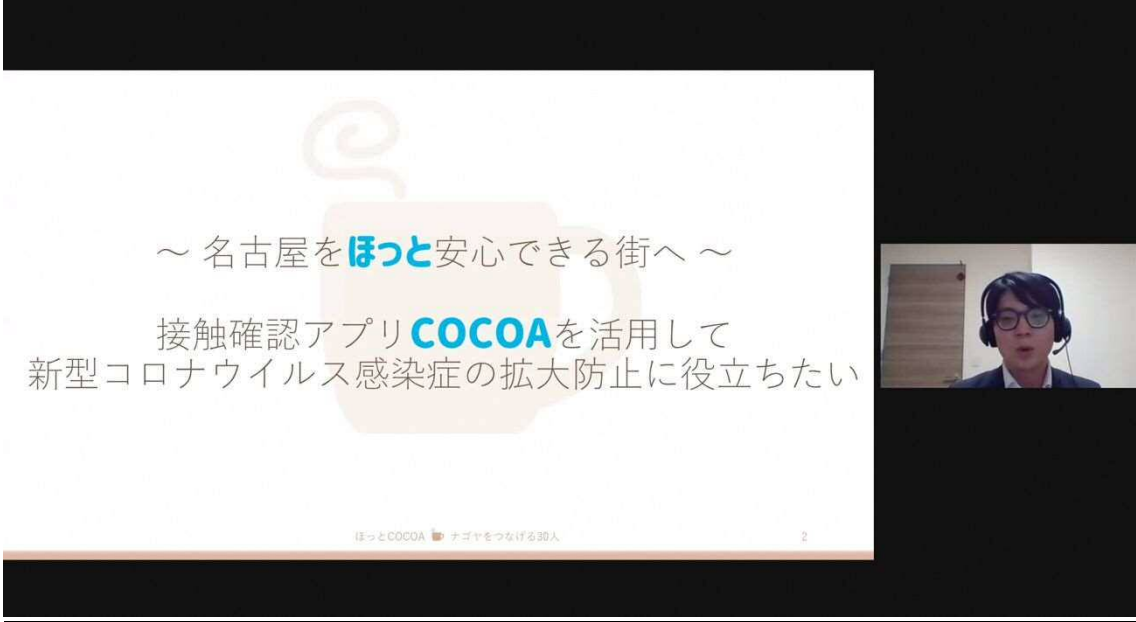
① 協賛企業を募る
② 「つなげるパブリカ」の知名度を向上
③ イベント開催における諸問題の解決

<ゲストの主なコメント>

浦野さん 100万人という壮大な目的をもち、高齢者をおいていかない使命感が素晴らしい。なんでも自分たちでやるのではなく、勉強会を開催している人など、専門家を巻き込む視点を大切にしてください。

鵜飼さん 心の満足度を高めるのに仲間づくりはとても効果的。リラックスできるたまり場ができると効果が生まれます。つなげるパブリカチームの取り組みで、まちのあちこちにコミュニティスペースができるのでは。

ほっと COCOA コロナ対策で名古屋を活性化



～名古屋をほっと安心できる街へ～

接触確認アプリCOCOAを活用して
新型コロナウイルス感染症の拡大防止に役立ちたい

ほっとCOCOA ナゴヤをつなげる30人 2

新型コロナ感染症対策として、接触確認アプリ COCOA の普及率向上をプロジェクトの軸としてきたほっと COCOA チーム。名古屋をほっと安心できるまちに。コロナ対策で経済を活性化し、「名古屋はスゴイまち！」だと全国に広めていく。今まさに取り組むべき課題に名古屋愛とともにアクションを起こしていこうと考えています。

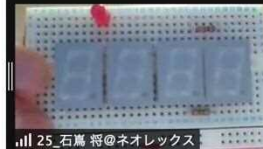
ファーストアクションとして掲げられたのは、まず「100 の団体に協力してもらうこと」。このプロジェクトに賛同してくれる組織を募ります。さらに、学生とのワークショップ、Web サイトやアンケートシステムなど啓発ツールの開発、賛同団体との連携イベントの実施など。すでに 20 団体ほどが賛同の意を示しており、名城大学では学生 1000 人にインストールをしてもらいました。新型コロナと向き合う日々が続くなか、活動が着実に展開されています。

具体的なアクション

- 八の会で賛同企業の募集（20社以上が協力OK）
- 名城大学で学生がインストール（2,000人以上）
- 名古屋人間力大賞へエントリー（来月）
- 学生とワークショップ（1月開催が延期、、、オンライン実施検討中）
- Webサイト制作（SNS等を使って加速させる）
- 非接触アンケートシステム（ポスター掲示、下にペダル設置して踏めば1カウント）
- 賛同団体とイベント実施（面白いアイデアがあればぜひ）
- 記者会見（準備OK。メディアの方、取材をお願いします！）

ほっとCOCOA ナゴヤをつなげる30人

8



<ゲストの主なコメント>

浦野さん コロナ禍のなかでとても意義のあるアプローチだと思います。これから先、状況が変わっていくでしょうが、安心なまちにしたいという思いを持って、次のステップを見つけていってほしい。名古屋愛を共有しながら、COCOA の普及以外のことも目指してもらえたら。

伊東副市長

健康福祉局も担当していて、コロナ対策はまさに喫緊の課題。COCOA を普及していくためには、その人のためになるものだというメッセージの発信が大切だと考えています。担当部局にも話して、コラボレーションできるようになるといいと思います。

アップサイクルに込める思い

・廃棄物に**価値を見いだす場**をつくりたい

企業
廃棄物が出る・・・

新たな価値の発見!

クリエイターや、
第三者の視点
アップサイクルで
廃棄物を使いたい!
興味がある!

・ものづくりの街だからこそ、**背景やストーリーを伝えたい**

モーニング文化の名古屋、コーヒークラスからきた○○

繊維業の盛んな一宮、残糸で作った○○

35_ブライアン 阿部

メーカー、広告、行政など異なる分野のメンバーが「SDGsを広めたい」という思いを共有して活動してきた Made in ナゴヤ 30 チーム。報告会では、現在 3 割程度といわれる名古屋市の SDGs 認知度を 1%高める、つまり新たに約 23000 人に知ってもらいたいと目標が掲げられました。取り組むのは、廃棄されてしまうものの価値をあげて商品化するアップサイクル。さまざまなメーカーが捨ててしまっているものを、みんなが欲しいものに生まれ変わらせる方法を考えます。「モーニング文化のある名古屋だから、捨てられるコーヒー豆に新しい価値をつけるなど、名古屋らしいストーリーも生み出していきたい」という構想も語られました。

今後の具体的なアクションは、アップサイクルを考えるワークショップの開催、SNS などの情報発信、アップサイクルの体験イベントの企画など。つなげる 30 人の他チームのイベントで活用できるグッズ制作も考えています。どんなアップサイクル商品が誕生するのか今から楽しみです。

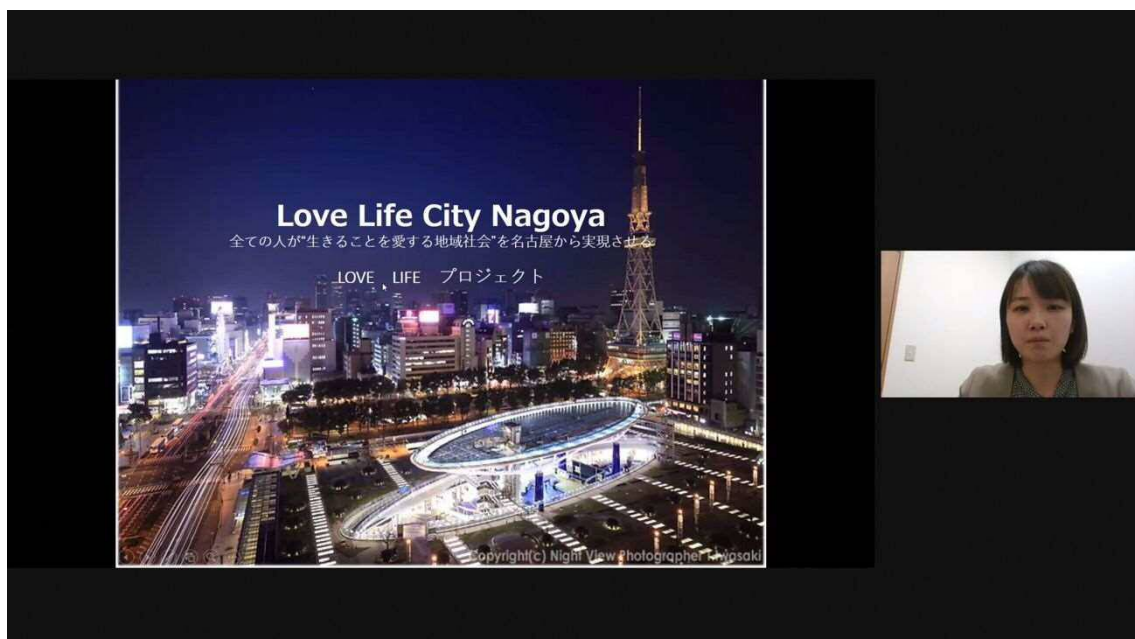


<ゲストの主なコメント>

鶴飼さん 賛同する人も多い理念、プロジェクトだと感じました。アップサイクルの商品を実際に手に取れる場所ができたり、Made in ナゴヤ 30 のロゴでブランド化したりしても面白い。参加した人がこのプロジェクトに関わったんだとはっきり示せる仕掛けがあるといいですね。

伊東副市長 名古屋市は SDGs 未来都市にも選定されています。環境デーなごやの参加企業など、プロジェクトに賛同してくれる人もたくさんいるでしょう。夢を語りつつ、具体的なアイデアで地に足のついた素晴らしい提案でした。

LOVE LIFE 生きることを愛せるまちに



参加メンバー3人が、それぞれの実体験も踏まえながら、「生きる」という大切なテーマと向き合ってきた LOVE LIFE チーム。社会全体がコロナ禍で元気を失いかげ、自殺者の増加も問題となっている今、人と人とが寄り添って心を通わせ合える社会を目指すプロジェクトです。大丈夫な人が不安を抱える人の話を聞くだけでなく、双方向のコミュニケーションを大切にする。そんな考えから出されたアイデアが「Love Life Night Walking」。

「生きるってなに?」「生きるとはどういうこと?」こうしたテーマでいろいろな人が語りながら、夜の名古屋のまちを一緒に歩く機会をつくります。まずは久屋大通公園で実施を予定。報告会では、メンバー同士が試験的に実践した際の気づきなども話されました。今後、「Love Life Night Walking」を開催しつつ、Webでの発信なども行い、たくさんの方が集うプラットフォームにできたらと考えています。生きることを愛せる人が増えていく。とっても素敵ですよ。

アイディア

Love Life Night Walking in Nagoya

○コンセプト
誰かと寄り添い合いながら名古屋の夜を歩くウォーキングイベント

○届けたい相手
最近悩みを抱えている人、周りの誰かを心配している人
誰かと生きる事について考えてみたい人、
誰かと気持ちを共有したい人→『いろいろな人』

○狙い
安心安全な場の提供と、「命を愛する」、「生きることを愛する」
ということを考え、分かち合うことで、参加してもらった一人一人の
参加者が前向きなLOVE LIFEな状態で帰ってもらう。

○実施場所
コース：名古屋久屋大通り公園
(名古屋の夜の印象的なスポット×非日常感×灯り×わくわく感)
イベントスペース(案)：商業施設プロッサ(NITTD都市開発保有ビル)

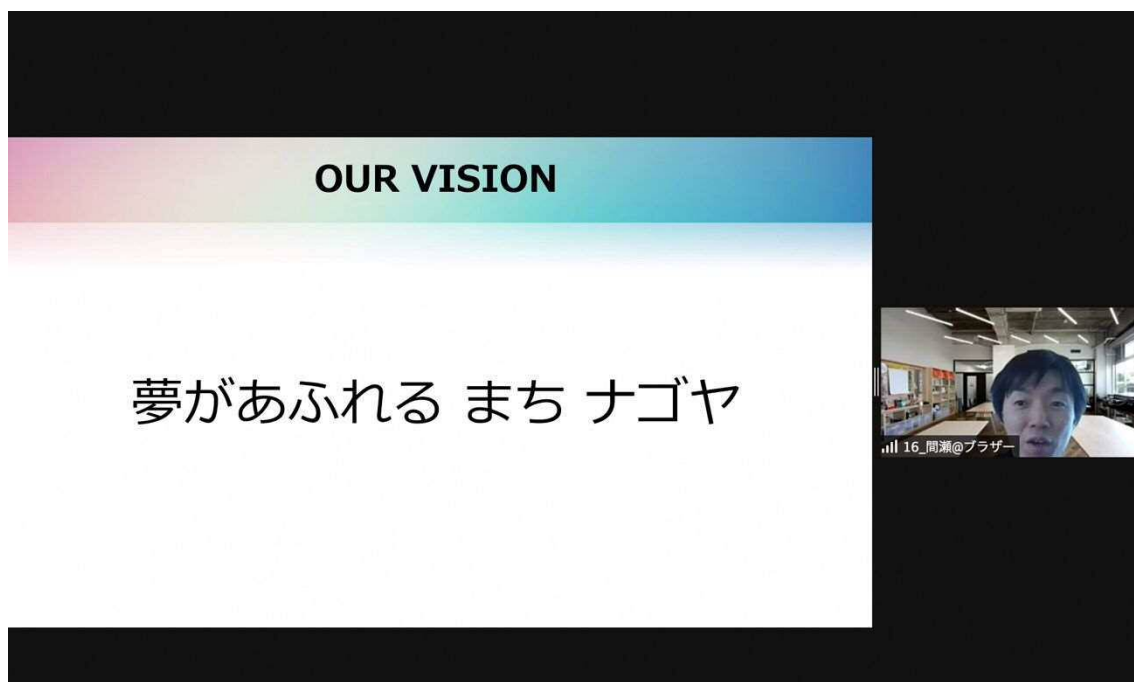


金田康平@名古屋市緑区役所

<ゲストの主なコメント>



浦野さん 自殺にもつながるネガティブなテーマを、誰かと寄り添うとポジティブに捉えているのが本当に良いと思います。AI などさまざまなテクノロジーが進化していく社会でも、人にしかできない取り組み。アナログだけでなく、オンラインも活用しながらいろいろな企画が考えられるといいですね。

鶴飼さん 自らの内面の課題も直視したテーマに取り組んだことを尊敬します。イベントの中に、体の硬直をほぐすマッサージのような要素を取り入れても良いかもしれない。言葉だけに頼り切らないコミュニケーションも模索してみてもいいと思います。




夢のことを考えると人はワクワクできる。夢は、自分にも他者にもエネルギーを与える「Happiness」と、夢によるつながりから新たな可能性が創出される「Innovation」の要素を持つもの。名古屋をそんな夢であふれるまちにしようとする DREAM QUEST NAGOYA チーム、通称「ドリクエ」。夢について当たり前語り合えるポジティブな力で名古屋を活性化していきます。

具体的なアクションとして、夢を叶えるためのつながりをつくるプラットフォームを創出。夢の種がきちんと芽吹くように、思考し、共有し、育てていくサポートをします。今後の活動として示されたのは、第一に「夢就活」。学生の夢を社会人メンターが引き出し、応援します。第二に「夢まつり」の実施、企業や行政と連携してイベントを企画し、たくさんの夢が集まる場づくりをします。さらに、企業がリレー形式で夢をサポートしていく仕組みの構想も。「夢があふれるまち」として名古屋を世界的に有名にする！メンバー自身の熱い夢とともにプロジェクトが走り出しました。

夢の  を  にするために

「夢を叶えるための繋がりを作るプラットフォーム構築」

→夢の「種」を探すきっかけづくり (STEP1-STEP2) と、「芽」にするためのサポート (STEP3) を展開する基盤



STEP 1
【思考させる】

STEP 2
【共有させる】

STEP 3
【サポートする】

28_奥野鈴花@名古屋トヨベ...

<ゲストの主なコメント>

浦野さん 聞いているだけでワクワクできる発表でした。閉塞感や不透明感が多いなかで夢を追うことは大事です。若い世代だけでなく、中高年の人にとってリバースメンタリングの効果がある取り組みだと思います。

鵜飼さん 目の前のひとりを大切にすることを核としながら、人がつながっていく社会像を描いていると感じました。つないでいく人たちの役割はとても大切。メンター同士が刺激し、成長し合える環境があってもいいですね。

いいね！駅西 未来の名古屋の玄関を「いいね！」といわれるまちに



名古屋駅西側のエリアって「ちょっと残念…」と言われがち。そんなイメージを払拭するために、「いいね！」と言われるまちづくりをお手伝いしたい。そんな思いでメンバーが集ったいいね！駅西チーム。リニア中央新幹線の開業に向けて、徐々に姿を変えつつある駅西の未来を考えてきました。リニア開通後は名古屋の玄関口にもなる場所。歴史的な背景や、すでに取り組みされているまちづくりの取り組みも視野にいれながら、プロジェクトのステップが示されました。

ファーストステップとして、できることをやりながら、地域活動の仲間を増やしていく。既存団体の活動にも参加しながら、ゴミ拾いなどの活動の企画もします。さらに、「駅西サポーター制度」の創設。仲間をさらに集めるための情報発信やパブリックスペースを活用したイベント開催など。リニアが開通する頃、駅西がどのように変わっていくのか、そのなかでどれだけの「いいね！」が生まれていくのか楽しみです。

事業フェーズ1 | 2021年

駅西クリーンアッププロジェクト

- ・駅西の清掃活動
- ・まちづくり協議会、町内会と連携

ナゴヤをつなげる
30人

連携依頼

牧野学区

太閤通まちづくり協議会

⇒まちづくり協議会、町内会との関係構築へ

NIKKEN
EXPERIENCE IN NAGOYA

<ゲストの主なコメント>

鶴飼さん さまざまな文化や歴史が織り混ざった、「名古屋らしさ」を最も感じるのが駅西だと思っています。新しいものと古いものが混在しているからこそそのまちづくりの難しさもある。時間をかけてでも、いろんな活動のなかに若い世代の観点をどんどん入れていってほしい。

伊東副市長 2027年に向けて少しずつハードの整備が進んでいます。まちづくり協議会、地域のサポーターの方など、すでに活動している人もたくさんいるので、多様な人たちを巻き込みながら、名古屋のまちを自分たちの手でつくってもらえたら。

ここからがスタート。7つのプロジェクトのこれからを見守ってください。



このように7つのチームそれぞれから、個性的でワクワクと心踊る発表がなされました。発表後には、河村市長から激励の言葉もあり、今後の活動展開に向けて背中を押していただきました。ナゴヤをつなげる30人、ひとまず半年間の活動に区切りがつけられます。けれど、これで終わりではなく、ここから各チームのプロジェクトが実践されていくでしょう。どれも地域社会にとって重要な課題解決を目指すものばかりです。これからの動きもチェックしていただきながら、ぜひ応援してください。企業、NPO、大学、行政と異なるセクターから集ったメンバーたちが生み出した企画です。より多様な人たちと一緒に、想いと行動が膨らんでいきます。

